

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18310156
 研究課題名（和文） アラブ世界の活字文化とメディア革命
 研究課題名（英文） The Culture of the Printed Word and the Media Revolution in the Arab world
 研究代表者
 氏名(アルファベット)長澤 榮治 (NAGASAWA EIJI)
 所属機関・所属部局名・職名 東京大学・東洋文化研究所・教授
 研究者番号：00272493

研究成果の概要：本研究は、アラビア語インターネットの急速な発展に代表される新メディアの普及により大きな影響を受けて変動するアラビア語使用地域の社会政治の実態分析に供するために、アラビア語をめぐる諸問題、とりわけその情報環境に焦点を絞って研究情報の蓄積と手法の開発を試みた。そのために辞書、メディア、小説・雑誌研究の各研究領域別のデータの収集と入力作業、分析を行い、成果の一部を「現代アラビア語基礎研究データベース」などとしてまとめた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：総合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：西アジア

1. 研究開始当初の背景

湾岸戦争・イラク戦争を経た現在のアラブ世界は、権威主義的政治体制からの転換をはじめとする数々の社会政治改革を迫られている。こうした変革の方向性を検討する際の重要な問題がアラビア語メディアにおける情報革命の影響である。アル・ジャジーラに代表されるアラビア語衛星放送の普及、あるいはアラビア語インターネットの急速な発展といったアラブ世界のメディア革命は、急

進的なイスラーム主義運動のグローバルな展開といった政治現象の背景になるなど社会的関心を集めている。しかし、今後の変化を考える上でより重要なのは、メディアによる伝統的な活字文化の変容とその社会的影響である。アラブ世界ではフスハーと呼ばれる文語を中心に文化伝統が育まれてきたが、一方で非識字者の多い一般民衆のアンミーヤと呼ばれる口語の世界との間の知的断絶現象が長く見られた。しかし、現在起きつ

つあるメディア革命は、このアラビア語活字文化の伝統的な構造に影響を及ぼし、知識人と民衆、国家と社会の関係に変化をもたらしつつあり、こうしたメディア革命とアラブ世界の活字文化の変容について基礎的な研究をする必要がある。

2. 研究の目的

このようなメディア革命を通じた文化媒体の変化がアラブ世界の活字文化に及ぼす影響とその社会的政治的含意を考察するために、本研究では、基本的な文化媒体である(1)辞書、(2)メディア(ラジオ、テレビ、映画、インターネット)、(3)小説・雑誌の三つを取り上げ、現在進行している文化環境の変化を、それらにおける語彙や文体の変遷、新メディアの影響などについて基本的な情報を収集し、考察することを目指す。

(1) 第一の研究対象であるアラビア語辞書については、高度情報化の流れを受けた電子辞書の本格的構築の動き、専門用語辞書・地域別口語辞書の最近の動向、社会のイスラーム化(イスラーム的知識の大衆化)の影響などを踏まえ、社会階層構成の変化と流動化を明らかにする手がかりとなる辞書に収録される語彙の変遷について情報を収集し、考察する。

(2) 第二の研究対象であるアラビア語メディアの革命的变化は、アラブ諸国の対立・分断状況とは対照的に、文化世界としてのアラブ世界の一体化を促進させている。メディアに対する厳しい国家統制を突き抜けて進行する情報化の流れによって、汎アラブ的なメディア世界、新しい形でのアラビア語公共圏が形成・発展している。また、この新しいメディア状況の中で、テレビや映画を媒体とする新しいアラブ・マスカルチャーが生まれつつある。こうした文化媒体をめぐる環境変化は、汎アラブ的な新しい市民社会と政治文化の形成に大きな影響を及ぼしつつあり、両者の関係を実証的に明らかにする必要がある。

(3) 第三の研究対象である小説・雑誌の世界は、アラブ世界の活字文化において中心的な位置を占めているが、上記の文化媒体をめぐる環境変化の影響をもちろん免れるものではない。現在進行中のアラビア語の語彙および文体の変化については、近代アラビア語改革の最大の課題であった文語・口語関係におけるさまざまな実験的な試みの中から豊かな材料を得ることができる。アラブ古典文学の伝統と近代アラビア語小説研究を踏まえながら、こうした変化を歴史的に位置づけて、それが今後のアラブ社会、とりわけ知識人社会と大衆社会の関係にどのような影響を及ぼしていくのかを展望することは現代アラブ研究において重要な意味を持っている。

3. 研究の方法

上記の三つの文化媒体ごとに基本的な情報を収集するとともに、語彙・文体情報については、共有のアラビア語基礎情報データベース構築のために情報入力作業を共同で行う。同データベース構築のために、アラビア文字の高度情報処理に関するプログラム開発も試みる。三つの文化媒体別の研究手法は以下の通りである。

(1) アラビア語辞書研究については、古典アラビア語辞書、近代アラビア語文語辞書、専門用語辞書、地域別口語辞書、地名人名辞書など特殊辞書・事典を対象として、語彙・文体の変化を研究するためのデータ収集と語彙・文体に関するデータのアラビア語入力を行う。

(2) アラビア語メディア研究については、ラジオ、テレビ、映画、インターネットなどのアラビア語メディアについて最新の状況を把握するとともに、そこで用いられるアラビア語の特徴を抽出する。これらメディアの歴史的発展の経緯を分析するとともに、技術的側面、経済的側面、そして政治的側面からの特性を分析する。

(3) 小説・雑誌研究については、アラブ諸国の文芸事情に関する最近の状況をサーベイ、とくに新メディアが与えた影響について必要な情報と語彙・文体データなどを入力し、文語・口語関係の変化とその社会政治的含意についても考察を行う。

4. 研究成果

(1) アラビア語辞書研究のために各種辞書・事典をサーベイし、語彙・文体の変化に関するデータ収集の作業のために、2006年度には現代アラビア語の語彙・文体を多く収録した辞書の試作原稿を複写製本し、今後の研究の参考資料とした(『高野版現代アラビア語辞典』)。2007年度には上記のアラビア語・日本語辞書の試作版を広く社会に供するために図書館閲覧版を作成した。同辞書資料は、現代アラブ文学・アラビア語学研究者の故高野晶弘氏の遺稿に依拠したものであり、上下2巻計1450頁、語根などの見出し語5500、小見出し語16600、動詞派生形6400、連語成句6000あまりの膨大な内容を持ち、同辞書資料のデータを中心に入力作業を行い、下記のデータベースの基盤とした。

(2) 小説・雑誌研究とメディア研究では連携してアラビア語使用地域で刊行されている雑誌のサーベイを実施し、その結果を「アラビア語定期刊行物データベース」としてまとめた。同データベースは、現在流通しているアラビア語定期刊行物のサンプルを約500タイトル収集し、これをデータベースとしたものである。これらの定期刊行物は中東地域

で刊行されたものであり、学術誌、一般（娯楽）誌、経済誌、政治誌、各種定期報告書、政府刊行物など、多岐にわたる内容および出版元の定期刊行物をサンプリングしている。（3）これまで3年間にわたり行ってきた各文化媒体のデータに関する作業結果を入力し、分析するために、アラビア語の複雑な文法体系に対応した、アラビア文字の高度情報処理に関するプログラムを開発し、その試作版として「現代アラビア語基礎研究データベース」を構築した。このデータベースは将来のアラビア語＝日本語／日本語＝アラビア語の電子辞書としても発展しうるものであるが、従来の電子辞書が一単語ずつの対応の「単語帳」にすぎなかったものに対し、アラビア語独特の複雑な文法体系に対応した階層構造をもっている点で画期的内容となっている。10以上ある動詞派生形、それからさらに派生する派生語の文法情報（名詞・形容詞・動名詞・場所名詞・道具名詞・能動分詞・受動分詞など）、語源、エジプトやシリアなどの地域別語彙、口語表現、これに関連する用例（連語・成句、文例）などが分析できる。またアラビア文字入力が画面上のキーボード入力が可能であり、さらに有用なのは語根別に検索が可能なことであり、たとえば第三語根が同じ原型を検索して古典詩の韻律などを調べることも格段に容易である。

（4）収集された語彙・文体などについての考察も進め、今後、データの整理と吟味を経て研究論文などの形で成果の公開が検討されているが、以下のような問題、トピックが取り上げられた。

新メディアが文語・口語関係に与えた影響：フスハー（文語、書き言葉）とアーンミーヤ（口語、方言、話し言葉）との間の距離縮まり、口語と文語の混淆文体が目立って増えてきた結果、文語と口語の「中間言語」といふべき新しい形のアラビア語が生成され始めている。その背景には、アラビア語インターネットの普及（とくに「掲示板」の繁用）、携帯電子メールの影響（たとえば新聞投書への口語文体での投稿の増大）、テレビ・ラジオ放送での口語使用のニュース・討論番組の増大などがあり、文学の分野ではアラビア語の「デジタル小説」の登場といった現象も見られる。

メディア・アラビア語の形成：近代のアラブ世界は、19世紀末に始まるナフダ（アラブの文芸復興）運動によって、従来の聖典クルアーンを基盤とする文人アラビア語としての古典アラビア語に加えて、「近代標準アラビア語」が生成・発展してきた。それは雑誌などの当時の新メディアや近代的辞書の編纂による近代アラビア語活字文化の形成によるものであり、翻訳語・新語の多用や簡略な文法構造で特徴づけられる。しかし、現在

は上記に述べた最近のメディア環境の変化が、この「近代標準アラビア語」からさらに「メディア・アラビア語」といふべき新しい言語形態を生み出している。その特徴は、文法の変化（見出し語などの動詞 主語の語順から主語 動詞の語順へ変化、数詞のアラビア文字表記の簡略化、女性形・男性形形容詞表記の省略による変化、接続詞の英語の用法への近似化）や発音の簡略化（語尾の格変化の省略、口語的発音の文語への転用）などによって特徴づけられる。また、翻訳語や新語の採用については、文化ナショナリズムによる欧米化への抵抗が見られる一方、アラビア語の造語能力の高さのため、多様な形態が観察される。

口語＝方言の地位に関する変化：アラビア語には、アラビア半島、イラク、シリア・パレスチナ、エジプト、マグリブ（北アフリカ）の地域別の5つの方言群があるが、近年、衛星放送など新メディアの登場によって、アラビア半島方言の一部である産油国の湾岸方言の地位が上昇し、他方、かつて映画やテレビドラマなどを通じて圧倒的な影響力を持っていたエジプト方言の相対的地位の低下が見られる。その他、地域方言別発音表記の変化が見られる一方、地域方言（口語）が新メディアを通じて汎アラブ化していく傾向も観察される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20件）

杉田英明「お喋り床屋の系譜 中東・ヨーロッパ文学における古典の継承と変容」『ODYSSEUS』13, 2009年, pp.1-32. 査読無

杉田英明「戦後日本の『アラビアン・ナイト』(続) 文学作品と戯曲・映画を中心に」『外国語研究紀要』13, pp.1-104 2009年, 査読有

小杉泰・岡本多平・竹田敏之 "Arabic Language Textbooks in Japan and Grammatical Terms Used in them" 『イスラーム世界研究』2-2 63-95頁 2009年 査読有

西尾哲夫「『コーラン（クルアーン）』とイスラーム共同体（ウンマ） 儀礼的音声言語の社会的機能に関する言語情報学的考察」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化 文字の民俗学 声の歴史学』思文閣出版 357-379頁 2009年、査読無

長澤榮治「経済改革の歴史的経緯」山田俊一編『現代エジプトの政治と経済』アジア経済研究所 89-114頁 2008年 査読有

長澤榮治 "Historical Contexts of

Economic Reform in Egypt” *Mediterranean World* 18, pp.57-77. 2008年 査読無

長澤榮治 “Urban Unrest and Social Movements under the ‘Soft State’ after Introduction of the Open-Door Policy in Egypt” *International Journal of Public Affairs* 4, pp.43-74 2008年 査読有

杉田英明 「戦後日本の『アラビアン・ナイト』 翻訳と研究・批評を中心に」『外国語研究紀要』13, pp. 1-60. 2008年, 査読有

加藤博 “Is the Egyptian Village a Community”, *International Journal of Public Affaires*, vol. 4, pp. 5-26 2008 査読有

加藤博 「砂漠に消えた「革命」(2) - 掘り起こされる近代エジプトの遊牧民「革命」」『東洋文化研究所紀要』153、71 - 124頁 2008年 査読有

加藤博・岩崎えり奈 “Rashda. a village in Dakhla Oasis” (with Erina Iwasaki), *Mediterranean World* 19, pp.1-55, 2008年 査読無

小杉泰 「イスラーム世界における文理融合論「宗教と科学」をめぐる考察」『イスラーム世界研究』1-2 123-147頁 2008年 査読無

小杉泰 「イスラーム原理主義」『世界史の研究』山川出版社 40-43頁 2008年 査読無

長澤榮治 「近代エジプトの国家と社会」池谷和信ほか編 『アフリカ1：総説、イスラームアフリカ、エチオピア』朝倉書店 319-32頁 2007年 査読無

杉田英明 「語学教材としての『アラビアン・ナイト』 明治～昭和前期を中心に」*Odyseus* 11 1-3頁 2007年 査読無

杉田英明 「アラビアン・ナイトの「発見」 ヨーロッパ世界の東方幻想」草光俊雄・宮下志朗編著 『ヨーロッパの歴史と文化』放送大学教育出版会 141-54頁 2007年 査読無

西尾哲夫 「ジバーリ・アラビア語(エジプト・シナイ半島南部)の構造と系統」『国立民族学博物館研究報告』31-2 159-225頁 2007年 査読有

長澤榮治 “Inventing the Geography of Egyptian Nationalism (Wataniya): A Review of Gamal Hamdan's The Personality of Egypt and His Personal History” *Mediterranean World* 17, pp.71-318 2006年 査読無

杉田英明 “The Arabian Nights in Modern Japan: A Brief Historical Sketch” Yuriko Yamanaka and Nishio Tetsuo (eds.), *The Arabian Nights and Orientalism: Perspectives from East and West* pp.116-67 2006年 査読無

小杉泰 “Al Manar revisited: the

“Lighthouse” of the Islamic Revival” Stephane A. Dudoignon, Komatsu Hisao, and Kosugi Yasushi (eds.), *Intellectuals in the Modern Islamic World* pp.3-39 2006年 査読無

〔学会発表〕(計 4件)

長澤榮治 Two Autobiographies of Egyptian Intellectuals: Sayyid Qutb and Sayyid ‘Uways Journée tuniso-japonaise 2009年3月25日: CERES, Tunis (チュニジア)

加藤博 The Middle East within Asia A Note on the Middle East in the context of Asia from the historical perspective International Symposium of the Institute of Humanities and the Institute of Middle Eastern Affairs 2007年12月5日 Myongji University, 韓国

西尾哲夫 アラビアンナイト・モンタギュー写本の系統 新「発見」の断片写本をもとに 日本オリエント学会第49回大会 2007年9月30日 関西大学(大阪)

加藤博 Transition from Pre-modern to Modern in the Middle East: in Case of Egypt 国際東方学者会議 2007年5月18日 教育会館(東京)

〔図書〕(計 6件)

加藤博 『ナイル-地域をつむぐ川』刀水書房、2008年 163頁

長澤榮治・池田美佐子 *A Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt* 2007年 179p.

西尾哲夫 『アラビアンナイト-文明のはざまに生まれた物語』岩波書店 2007年 218+6頁

加藤博 『「イスラーム vs. 西欧」の近代』講談社 2006年 205頁

小杉泰 『イスラーム帝国のジハード』中央公論社 2006年 382頁

小杉泰・東長靖・林佳世子(共編) 『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会 2008年 566頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

現代アラビア語基礎研究データベース

http://ricasdb2.ioc.u-tokyo.ac.jp:80/test/arabic_key.php

6 . 研究組織

(1)研究代表者

長澤 榮治(NAGASAWA EIJI)東京大学・東洋
文化研究所・教授
00272493

(2)研究分担者

加藤 博(KATO HIROSHI) (平成 18,19 年度)
一橋大学・大学院経済学研究科・教授
10134636

小杉 泰(KOSUGI YASUSHI)(平成 18,19 年度)
京都大学・大学院アジアアフリカ地域研究研
究科・教授
50170254

杉田 英明(SUGITA HIDEAKI)東京大学・大学
院総合文化研究科・教授
90179143

西尾 哲夫(NISHIO TETSUO) (平成 18,19 年
度)国立民族学博物館・研究戦略センター・教授
90221474

(3)連携研究者

加藤 博(KATO HIROSHI) (平成 20 年度)一
橋大学・大学院経済学研究科・教授
10134636

小杉 泰(KOSUGI YASUSHI) (平成 20 年度)
京都大学・大学院アジアアフリカ地域研究研
究科・教授
50170254

西尾 哲夫(NISHIO TETSUO) (平成 20 年度)
国立民族学博物館・研究戦略センター・教授
90221474